

## 非結球レタス

農薬取締法上、「レタス」と「非結球レタス」は別の作物である。

「非結球レタス」には、「非結球レタス」「レタス類」「葉菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

「非結球レタス」には、サラダ菜、かきちしゃ、リーフレタス等が含まれる。

————— 発病・加害時期  
 ════════ 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
初冬	まき	トンネル被覆											
		定植											
早春	まき	収穫											
		種											
晩夏	まき	種											
菌核病	灰褐色	発病・加害時期											
軟腐病	ヨトウムシ	発病・加害最盛期											
ハスモンヨトウ	アブラムシ	発病・加害最盛期											
ネキリムシ		発病・加害最盛期											

## 菌核病

### 留意事項

- 1 土壤中に黒いネズミのフンのような菌核が残り伝染源となる。
- 2 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。QoI剤(11)、SDHI剤(7)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 田畑輪換を図る。
- 2 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングする。
- 3 連作を避ける。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 収穫残さをほ場外に持ち出し処分する。
- 6 定植前に、たん水処理を行う。
- 7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【1500～2000倍 21日／2回】
- ・ [ポリオキシリンAL水溶剤](#) 19 【2500倍 14日／3回】
- ・ [アミスター20フロアブル](#) 11 【2000倍 7日／4回】
- ・ [スクレアフロアブル](#) 11 【2000倍 前日／3回】
- ・ [パレード20フロアブル](#) 7 【2000～4000倍 前日／3回】

## 灰色かび病

### 留意事項

- 1 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。
- 2 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 3 QoI剤 (11)、SDHI剤 (7) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【1500～2000倍 21日／2回】
  - ・ [アミスター20フロアブル](#) 11 【2000倍 7日／4回】
  - ・ [アフエットフロアブル](#) 7 【2000倍 前日／3回】

## 軟腐病

### 留意事項

- 1 高温多湿時に多発する。
- 2 キノンドーフロアブルは、水産動植物に強い影響を与える恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

### 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 3 被害株を早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [キノンドーフロアブル](#) M1 【800～1000倍 30日／5回】
  - ・ [マスタピース水和剤](#) —(生) 【1000～2000倍 前日／—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [バリダシン液剤](#) U 1 8 【800倍 3日/3回】
- ・ [スターナ水和剤](#) 3 1 【2000倍 14日/2回】

## ヨトウムシ

### 防除方法

1 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。

- ・ [アベイル粒剤](#) 4 A 2 8

【40g/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊

（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 株元散布 育苗期後半～定植当日/1回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [グレースシア乳剤](#) 3 0 【2000～3000倍 3日/2回】
- ・ [トルネードエースDF](#) 2 2 A 【2000倍 7日/2回】
- ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【5000倍 7日/2回】
- ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【2000～4000倍 前日/2回】
- ・ [BT剤](#) 1 1 A （IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

## ハスモンヨトウ

### 留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

1 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。

- ・ [ベリマークSC](#) 2 8 【400倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） かん注 育苗期後半～定植当日/1回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アフーム乳剤](#) 6 【1000～2000倍 3日/3回】
- ・ [カスケード乳剤](#) 1 5 【4000倍 3日/3回】
- ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日/2回】
- ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B 【1000～2000倍 前日/2回】
- ・ [BT剤](#) 1 1 A （IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

## アブラムシ類

### 留意事項

1 スタークル顆粒水溶剤及びアルバリン顆粒水溶剤の成分ジノテフランの総使用

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

回数は、4回以内（但し、は種前の培土混和は1回以内、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び育苗トレイへのかん注は合計1回以内、散布は2回以内）。

#### 防除方法

- 1 寒冷しゃで苗を被覆し、侵入を防ぐ。
- 2 シルバーポリフィルムでマルチングを行う。
- 3 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
  - ・ [アベイル粒剤](#) **4 A** **2 8** 【40g／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） 株元散布 育苗期後半～定植当日／1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) **4 A** 【2000～3000倍 3日／2回】
  - ・ [コルト顆粒水和剤](#) **9 B** 【3000～4000倍 7日／3回】
  - ・ [ウララDF](#) **2 9** 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [トランスフォームフロアブル](#) **4 C** 【2000倍 前日／3回】

## ネキリムシ類

#### 防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) **1 B** 【6kg／10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時または定植時／2回】
  - ・ [フォース粒剤 劇](#) **3 A** 【9kg／10a 全面土壌混和 定植前／1回】
  - ・ [アクセルベイト](#) **2 2 B** 【3～6kg／10a 株元散布 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。